

せんぱい

令和6年 1月
第71号



物部川 遡上鮎



仁淀川 友釣り



仁淀川 落ち鮎漁



仁淀川 鮎放流体験

写真：物部川遡上鮎：高知県内水面漁連、その他写真：仁淀川漁協

CONTENTS

新年のごあいさつ	2	我が漁連(新潟県内水面漁連)	18
全内漁連開催の各会議について		「わかやま友釣り塾」	20
監事会、総務委員会及び理事会を開催	3	密漁と密放流	22
外来魚対策の第2回検討委員会を開催	3	内水面漁協(第41回)	24
カワウ対策の第2回検討委員会と現地検討会を開催	4	愛しきアユ(第44回)	25
やるぞ内水面事業の内水面漁場管理検討協議会		ウナギ生息環境改善支援事業	26
・現地調査を実施	5	水産多面的機能発揮対策支援事業	27
第64回 全国内水面漁業振興大会を開催	6	令和5年度アユ種苗の河川放流実績調査報告	28
第2回全国事務担当者研修会を北海道で開催	10	日光支所から	29
カワウ被害対策におけるドローン研修会を開催	12	業務日誌	30
内水面漁業振興議員連盟の現地視察が開催される	14	職員のつぶやき	31
内水面漁業振興議員連盟総会	14	新聞記事から	31
秋の叙勲・水産功績者表彰・新会長の紹介	16	編集後記	31
内水面漁業協同組合の取組に期待	17		

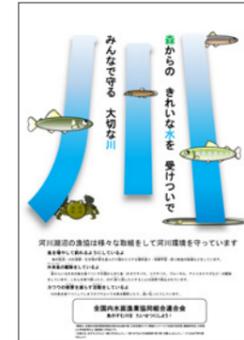
漁業者(会員漁連の傘下漁協組合員、漁業者以外の購読者)

年間契約「四回発行」定価三、〇〇〇円(本体二、七八円)送料サービス
年間契約「一回発行」定価三、二〇〇円(本体二、九一〇円)送料サービス

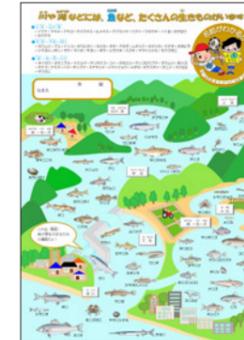
単品 定価七五〇円(本体六八二円)送料別
単品 定価八〇〇円(本体七二八円)送料別

information

全内では、クリアファイル・パンフレット・ポスターの普及啓発用資料を作っています。申込は各漁連でのとりまとめをお願いしています。申込締め切り後に新たに発注する場合には、単価が高額になりますので、初回申込でまとめて注文くださるようお願いいたします。詳しくはお問い合わせ下さい。



クリアファイル表図案 (A4)



クリアファイル裏面図案



パンフレット図案 (三つ折り6面)



ポスター図案 (B3判)

令和5年度 アユ種苗の河川放流実績調査報告

全内では、傘下42都府県内水面漁連を通じて、アユ種苗の放流実績調査を毎年度において実施しています。5年度はアユを放流した535漁協のうち、461漁協から詳細な回答が得られました（回答率86.2%）。ご協力いただき、ありがとうございました。

【調査結果】

● **放流量**
令和5年度の放流量は674.43トンで、4年度より27.26トン減少しています。4年度の放流量については、本誌67号で692.39トンとお伝えしていますが、追加情報があり701.69トンとなっています（図1）。

● **種苗の質**
各種苗の占める割合は、過去5年とほぼ変わりなく、琵琶湖産19%、人工種苗72%、海産・河川産9%という内訳になりました（図2）。

● **種苗の質**
「琵琶湖産」は、4年度から評価に大きな変化はなく、「概ね良好」と回答した漁協が56漁協（58%）、「良くも悪くもなかった」は24漁協（25%）が回答しています。「人工種苗」についても、4年度とほぼ同様の評価でした。

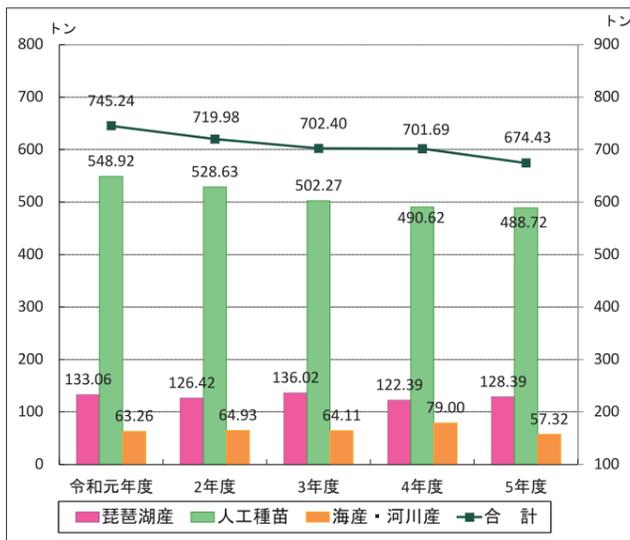


図1 アユ種苗の河川放流量の推移（令和元～5年度）

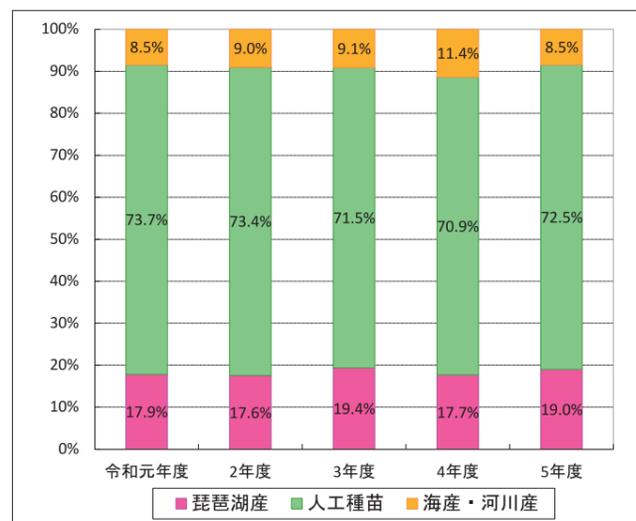


図2 アユ種苗別の内訳の推移（令和元～5年度）

表1 アユ種苗別の価格に対する評価

項目	琵琶湖産		人工種苗		海産・河川産	
	漁協数	割合	漁協数	割合	漁協数	割合
a.高い	44	50%	84	22%	20	24%
b.適正と思われる	39	44%	256	67%	50	61%
c.良質なら少し高くても良い	4	5%	28	7%	5	6%
d.その他	1	1%	15	4%	7	9%
合計	88	100%	383	100%	82	100%

「良好」と回答した漁協が、4年度の70%より減少し、4年度は「悪かったものが多い」と回答した漁協は1つもありませんでしたが、5年度は5漁協が回答しています。

● **種苗価格**
琵琶湖産は、「高い」とする評価は、5年度は44漁協（50%）と4年度の36漁協（41%）より増加し、半数の漁協が高いと感じている結果となりました。人工種苗は4年度と変わりありませんでしたが、海産・河川産でも「高い」とする評価が最も多かったことと、冷水病以外の発生が極めて少ない傾向はこれまでと同じでしたが、5年度は冷水病の発生事例が61漁協で、4年度の56漁協より増えていますが、3年度の90漁協の7割弱に留まっています。

とする回答が、4年度の14漁協（15%）より増加しています。

「適正と思われる」と回答した漁協は、各種苗とも4年度の、琵琶湖産52漁協（55%）、人工種苗274漁協（70%）、海産・河川産71漁協（77%）より減少しました（表1）。

● **魚病について**
冷水病の発生が最も多かったことと、冷水病以外の発生が極めて少ない傾向はこれまでと同じでしたが、5年度は冷水病の発生事例が61漁協で、4年度の56漁協より増えていますが、3年度の90漁協の7割弱に留まっています。

近年は、台風や線状降水帯による豪雨による被害が各地で発生していますが、5年度においては、アユ釣りが解禁となる河川が多い6月初旬に、豪雨による被害が中部地方を中心に発生したため、放流後の状況に対するコメントでは、「漁にならなかった」、「魚影が確認できなかった」、「濁りが1ヶ月近く取れなかった」といった回答がありました。

その一方で、西日本の県では、渇水や高水温により、「育たない」、「酸欠と思われるへい死あり」、「追いが悪く、友釣り釣れない」といった回答もありました。



日光支所から

湯川リバークリーンと懇談会

湯ノ湖・湯川の釣魚期間が令和5年9月30日で終了し、「湯川リバークリーンと懇談会」を10月1日に行いました。この清掃活動は、釣り人からの発案で行われるようになり、コロナ禍で一時的にも余儀なくされましたが、平成13年から行っています。湯川に感謝し、水辺環境を保全するため、釣りシーズンの終了に合わせて川とその周辺の清掃を行います。

今年度は、雨のため清掃活動が中止となり、懇談会のみ開催となりました。懇談会では、日光支所から釣魚者数などの報告を行い、水産技術研究所の職員からは資源調査の結果や魚の生態についてなどの研究報告がされました。

また、今年度の懇談会は、日光国立公園園管理事務所からの参加があり、近年、湯川で繁殖が確認された特定外来生物のオオカワヂシャについての現状と課題が報告されました。担当者からは、次年度以降に、オオカワヂシャの駆除イベントを開催したい旨の提案があり、開催時には、全内は釣り人にイベントの参加を呼びかけるなど、SNSも活用して釣り人への啓発を行っていくこととしました。

日光支所の事業

今年度の釣魚者数の合計は震災前を上回りましたが、東京電力福島原子力発電所事故から12年が経過してなお、湯ノ湖での家族連れや小学校の釣り体験が震災前と比較して回復していません。また、放流魚の購入費用や燃料費・飼料費等のコスト増大、熊による施設被害、養魚施設や事務所の老朽化などの課題も残されます。

日光支所では、釣り場管理と環境保全のため、湯ノ湖で増加するカワウの被害対策や、外来植物のコカナダモを回収する作業を行っています。湯川では、裸地復元のため、湿原への立ち入り制限を環境省や水産技術研究所と7年前に設置、その維持管理に協力しています。立ち入り制限柵を設置して、裸地復元のため努めています。



湯ノ湖でのコカナダモの回収の様子



湯川での立ち入り制限柵



恭賀新春

滋賀県淡水養殖漁業協同組合

〒520-0801 滋賀県大津市におの浜 4-4-23

電話 077-521-4193

URL <https://www.eonet.ne.jp/~shigatansui/>